助産師レター

滋賀県看護協会助産師職能委員　　VOL．21　　平成 25 年２月

立春を迎え、皆様におかれましても、ますますご健勝のことと
お慶び申し上げます。
2013 年も助産師職能委員会は、会員の皆様に最新の情報をお伝えし、
活躍していただけるよう頑張りますので、よろしくお願いします。

助産師職能集会

平成 24 年 12 月 15 日開催

１．全国助産師交流集会報告

【平成 24 年度　重点事業計画報告】
助産師の積極的な活用による安全で安心な妊娠・出産・育児環境の整備
＊出産の場や助産師の養成に関する実態把握
＊助産師のキャリアパス/助産実践能力習熟段階の検討と評価
＊分娩施設における災害発生時対応に関する普及啓発
＊病院・診療所における院内助産システムの推進
＊助産師の適正配置の検討
＊普及啓発：助産師キャンペーンの実施

２．滋賀県助産師職能委員会報告

＊助産師の技術・知識の向上への支援活動
　〇研修会「産科医療補償制度再発防止」
　〇新生児蘇生法 A コース認定講習会
　〇いいお産の日フォーラムへの参加
＊「滋賀県救急母体搬送看護情報提供書」改訂版作成
　〇滋賀県母性衛生学会　平成 25 年 1 月 26 日発表
＊助産師キャリアアップ応援事業研修との連携
＊助産師の確保・定着推進
　〇高校生対象進路説明会参加
＊助産師に関する情報の発信
　〇助産師レターの発行３回／年
　〇助産師職能集会開催
＊周産期における災害時対応の情報発信
　〇近畿ブロック助産師職能委員会
　　「周産期における災害シンポジウム」共同開催

３．グループワーク

テーマ１「『母体搬送看護情報提供書改訂版』について」
職能委員会で作成中の上記情報提供書の簡易版を提示し、意見交換を行いました。情報提供側と受け手側の混在したグループでお互いの思いが交差し、多くの意見をいただきました。

テーマ２「事例を通して安全な分娩を考える」
産科医療補償制度ガイドを参考に事故事例を提示し、グループワークを行いました。助産師の観察力をつけるための教育や事例毎の検討会、医師を含めたスタッフ間のコミュニケーションの大切さが早期対応につながり、事故防止になることを再認識しました。

グループワークでは、各施設間の情報交換ができ、とても活発なディスカッションが行われました。

４．研修会内容

テーマ『産科医療補償制度
再発防止のために事故事例から学ぶ』
滋賀医科大学産科学婦人科学講座
准教授　　喜多　伸幸　先生

双胎の一般的分娩管理、原因分析報告書症例と滋賀医科大学での実際症例による違いを比較して、産科医療補償制度の補償対象症例の特徴と見方、吸引分娩の適応、クリステレル胎児圧出法の適応と要約、それぞれの留意点を学びました。

さらに、再発を予防するためには、産婦のそばにいる私たちが、医師の判断で行われる吸引分娩やクリステレル胎児圧出に対して、助産師として判断し、これ以上危険と考えたら主張することの大切さも教えていただきました。アンケートでは、助産師も産婦人科診療ガイドラインによる基本的知識を高めていく必要性があるとの声も聞かれました

周産期における災害シンポジウム

日時：平成 24 年 10 月 27 日(土)

場所：大阪看護協会レモンホール

近畿ブロックの助産師職能委員で企画運営したシンポジウムが開催され、定員 300 人を上回る参加希望があり、滋賀県からは 46 名の参加がありました。

日本看護協会助産師職能委員の宮川祐三子氏からは、周産期の防災マニュアルについての報告がありました。22 都道府県から 74 施設のマニュアルが収集され、全国的にマニュアルの整備が不十分である現状が示唆されました。平成 25 年には、分娩施設における災害対策マニュアル作成ガイド(案)が配布される予定です。

スズキ記念病院の八木橋香津代看護部長の講演では、東日本大震災での被災体験からの提言がありました。「病院の立地条件を把握し、災害に備え、他機関との協力や連携体制を整えることが重要」「マニュアルの見直し、災害教育を充実させるとともに、被災した職員個々に対する支援も今後の課題」と話されていました。

日本赤十字社医療センターの中根直子師長からは、派遣経験から災害時に必要な視点について、助産センターをトリアージ区域に置く必要性と支援者の自律が重要であることを話されました。

神戸市看護大学(日本助産師会　災害対策委員長)の高田昌代教授から、私達自身の防災への日頃からの備えの重要性について話されました。災害時に生きた支援を構築するためには、現在の取り組みの積み重ねが必要であると強調されていました。

今後も想定をこえる災害が起こりうると自覚し、それぞれの施設における防災マニュアルの整備や日頃から個々での備えを十分にしていきましょう。

新生児蘇生 A コース認定講習会開催

日時：平成 24 年 11 月 10 日（土）

場所：大津赤十字病院

助産師職能委員会による新生児蘇生講習会が開催されました。県内の診療所、病院から助産師 16 名の参加があり、講義、実技、試験と有意義な講習会となりました。

助産師職能主催での開催は今回で２回目となります。終了後のアンケートでは、「職場で伝達講習を行いたい」「実際の場面で活かせるように練習していきたい」など、頼もしいご意見をいただきました。滋賀県助産師職能委員会では安全で安心できる出産環境の提供のため、今後も新生児蘇生講習会を継続する予定です。まだ認定を取得されていない方は、ぜひご参加ください。

“いいお産の日フォーラム”

日時：平成 24 年 11 月３日（土）

場所：日本看護協会ＪＮＡホール

助産師や看護管理者ら約 100 人が参加しました。

８月に行われた「助産師出向システムと助産実習の受け入れの可能性などに関する調査」結果報告がありました。

- 助産師の就業先は偏在している。
- 助産師の出向実態があり、出向システムには、ニーズがある。
- 病院の 59%が、一定条件が整えば他施設へ出を検討する。
- 診療所の 40%が、助産師の出向を受け入れたい。
- 出向を可能にする前提は、給与や福利厚生に関する事が多い。
- 助産師出向システムの推進が可能である。

まとめとして、**助産師出向システムは、一定条件が整えば実現可能である**と提言されていました。

☆　詳細については日本看護協会ニュース 2012 年 11 月 15 日号を参照してください。